

# 病害虫発生予察指導情報 (果樹全般・カメムシ類 No.4)

令和2年6月10日  
鳥取県病害虫防除所

## 1. 情報の内容

6月第1半旬現在、予察灯等におけるカメムシ類の誘殺数が増加しています。ほ場を観察し、カメムシ類の発生が多い場合は、防除を実施してください。

## 2. 情報の根拠

- (1) 6月第1半旬現在、予察灯及び集合フェロモントラップにおけるカメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の誘殺数が多い（図2，3）。
- (2) 5月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、無袋・殺虫剤無散布、ナシ、‘ゴールド二十世紀’）においてカメムシ類の被害果実は認められていない。
- (3) 県内では5月下旬にオウトウでチャバネアオカメムシが多飛来したこと、ナシやカキでは園内で少数のカメムシ類が観察された等の情報がある。
- (4) 気象予報（6月4日発表）によると、向こう1か月の気象条件は、カメムシ類の活動にやや好適である。

## 3. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去多発年に早期被害のあった地域では注意する。
- (2) カキでは、早期のカメムシ類による加害は落果被害となることを念頭に観察する（写真1）。ナシでは、袋掛けによる物理的な被害軽減効果が高いため、大袋掛け時期が遅くならないようにする。
- (3) カメムシ類の多発生年の対策（図1）

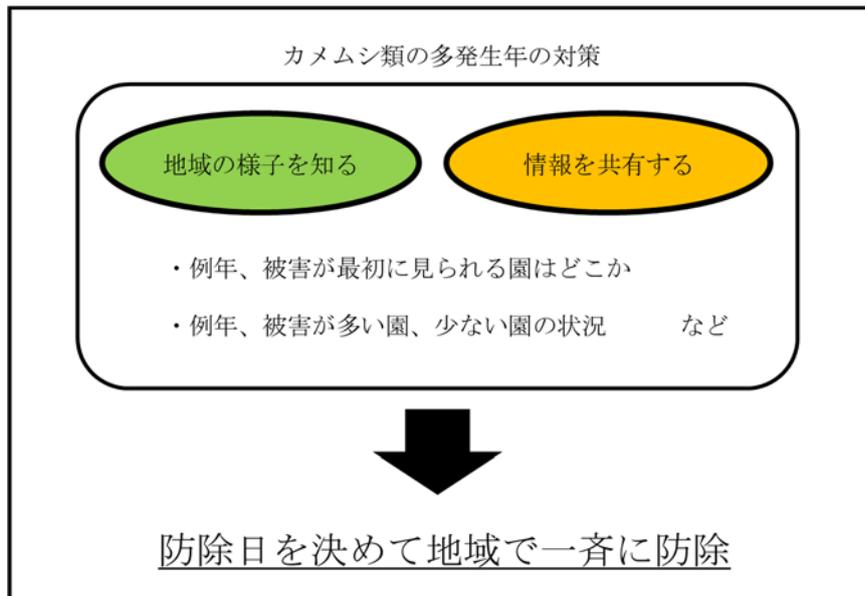


図1 カメムシ類の多発生年の対策（過去地域で実施された防除成功例）

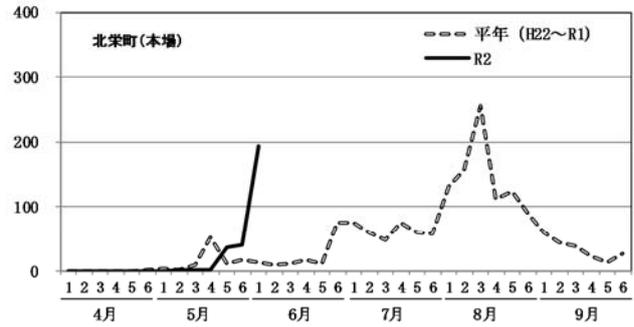
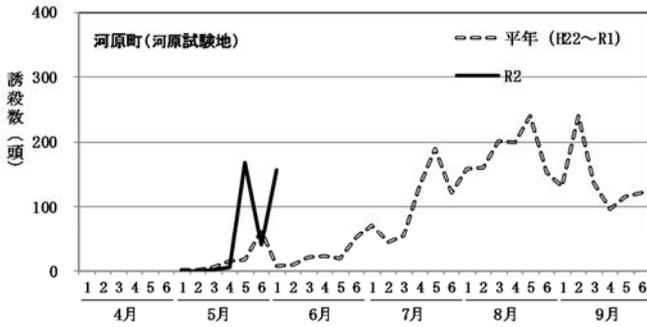


写真1 カメムシ類の加害によるカキ果実落果の様子（7月下旬）  
網内にカメムシを放飼. 3日後に落果を確認した.

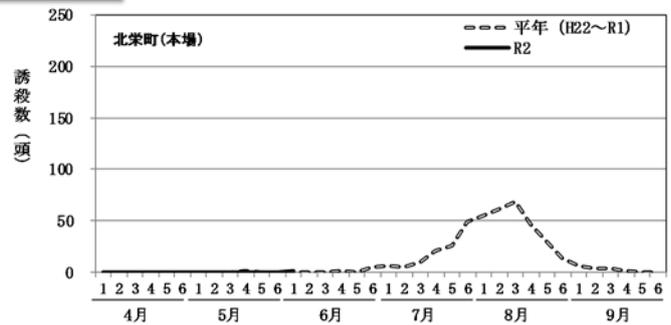
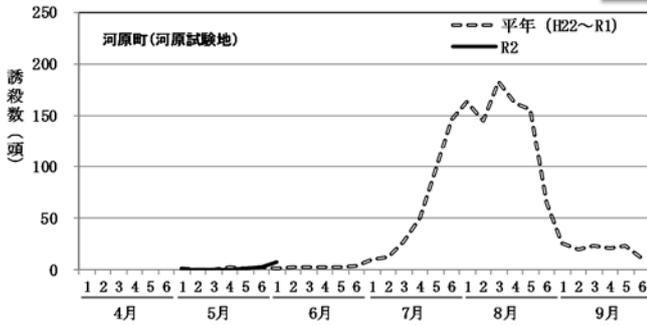


写真2 サンゴジュの実に寄生するチャバネアオカメムシ  
6月下旬頃からサンゴジュの実が大きくなり始める.  
近くのサンゴジュを定期的に観察する.

チャバネアオカメムシ



クサギカメムシ



ツヤアオカメムシ

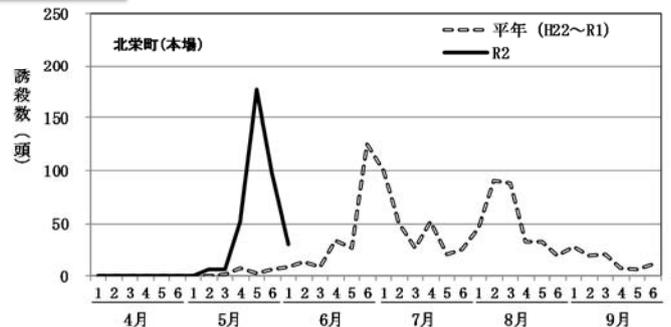
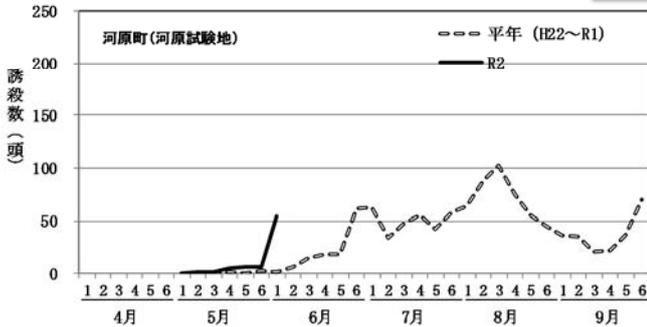


図2 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数

チャバネアオカメムシ

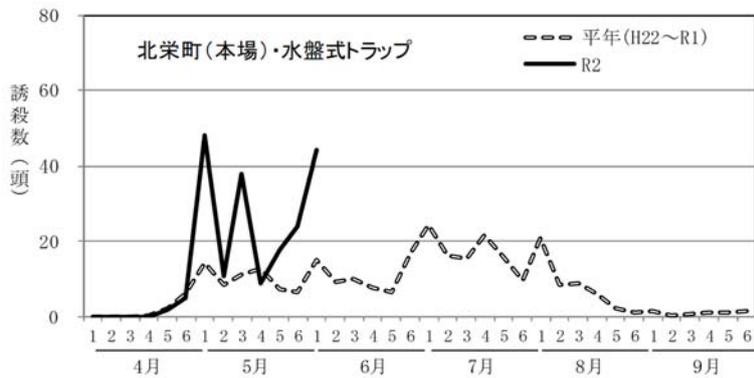


図3 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数